

「ふるさと甲州の伝統文化に親しみ、郷土を愛し、誇りに思う児童の育成」
～地域とのふれあいを通して～

I 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①児童及び教師の意識実態調査と分析
- ②市内の文化財や伝統文化に関連する地域産業等の臨地研修と、地域素材の洗い出し
- ③伝統文化の視点と年間指導計画の作成
- ④授業の構想や指導過程が見通せる「教材化シート」の作成
- ④地域素材を生かした授業の展開
- ⑤学習環境の整備と人材バンクの活用（臨地研修での指導や学習の中でのゲストティーチャーなど）

(2) 具体的な研究活動

- ①児童及び教師の意識実態調査と分析
 - ・「伝統文化アンケート」を実施し、児童と教職員の実態把握と分析を行った。「国宝や文化財」「地域の祭り」「郷土食」「フルーツ」等に関心があり、昔から伝わるものをこれからも守っていきたいと考えている児童が多いことが分かった。
- ②市内の文化財や伝統文化に関連する地域産業等の臨地研修と、地域素材の洗い出し
 - ・甲州ワイン発祥の地と言われる勝沼にある「宮光園」、江戸幕府に献上する甘草を育てていた「甘草屋敷」など、市内の名所で研修し、資料収集を行った。
- ③伝統文化の視点と年間指導計画の作成
 - ・教科等の指導目標を実現するため、伝統文化の視点を設定した。全職員で共有した。
 - ・各学年の教育課程と、地域素材との関連付けを行い、授業実践に生かした。
- ④授業の構想や指導過程が見通せる「教材化シート」の作成
 - ・地域素材の概要や伝統文化の視点との関連、また地域とのふれあいの在り方などを1枚にしたシートを作成した。
- ⑤地域素材を生かした授業の展開
 - ・地域素材を単元構成の中に効果的に位置付け、伝統文化の視点を取り入れた授業作りを行った。
- ⑥学習環境の整備と人材バンクの活用
 - ・研究主題の具現化に迫るため、指導内容や教育目標を地域の産業や行政に携わる方々と共有し、連携を図りながら授業作りを行った。
 - ・「甲州ふるさとかるた」の配付や教室への掲示、学習の足跡を児童自ら確認できるような学習掲示の工夫を行った。

各学年の実践

- ・第1学年 「みんなで楽しもう」（生活科）
- ・第2学年 「発見！町へとびだそう 町たんけん（秋）」（生活科）
「ともだちほしいなおおかみくん」（道徳）
- ・第3学年 「受け継がれる行事」（社会科），「書写に親しもう」（国語科）
- ・第4学年 「昔から今へと続くまち作り」（社会科），「兵左衛門の水」（道徳）
- ・第5学年 「わらぐつの中の神様」（国語科）
- ・第6学年 「工夫しよう，おいしい食事」（家庭科）

II 成果と課題

【伝統文化の視点と年間指導計画の作成について】

- 教育課程への位置付けについて、当初は伝統文化の視点から地域素材を洗い出し、教科等へ生かすことを考えた。しかし、本市には豊富な伝統文化の素材があるからこそ、教科等の目標を達成するために、伝統文化の素材を活用するという方向で考える事の大切さに気付くことができた。両方向からの洗い出しを行うことにより、年間指導計画を再整理し、より焦点化することができた。
- 教科等の単元と関連する地域素材について、「気付く、関わる、発信する」という伝統文化の視点を通して追究したり、授業を組み立てたりしたことにより、郷土を愛し、誇りに思う児童の育成につなげることができた。
- 年間指導計画の中の単元名に、地域素材名を吹き出しの形で表示したが、連携するゲストティーチャーや具体的な場所等は分かりにくかった。地域素材名やゲストティーチャー名、地理的な環境等を分かりやすく明示していくことが課題である。

【授業の構想や指導過程が見通せる「教材化シート」の作成について】

- 地域素材の概要や、教材化による教師・児童両者にとっての期待・願い・思いをはっきりさせ、授業作りに生かすことができた。
- 昔の遊びや道具、文化財や国宝など、学校周辺だけでも多くの地域素材があり、各教科等の内容と関連付けを行う中で、施設の見学や伝統文化の視点に沿った体験を多く取り入れることなどの構想作りができた。

【地域素材を生かした授業の展開について】

- 地域素材を単元構成の中に効果的に位置付け、「気付く・関わる・発信する」という伝統文化の視点を取り入れた授業展開により、児童の学習に対する興味・関心を高め、学びに向かう態度を育成することができた。
- 地域素材を生かした授業展開を行うことにより、習得した知識を活用したり、思考力・判断力・表現力等を発揮させたりしながら、知識を相互に関連させてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりする学びを実現することができた。
- 市役所の文化財課、地域の観光ボランティア、産業の発展に詳しい方など、多くの方々と連携して伝統文化教育を推し進めることができた。例として、郷土食「ほうとう」を教えてください方や甲州弁の語り手、昔の遊びに詳しい方など、幅広い内容で地域とのつながりを持つことができた。
- 郷土を愛し、誇りに思う児童の育成という伝統文化教育の目標の実現に向けて、郷土や地域はもとより、家族や自分自身に対しても愛着や誇りを持たせていくためには、伝統文化の視点を通して地域素材を理解し、思考を深め、よりより社会や自らの人生を創り出していけるような授業展開の工夫を行っていくことが今後の課題である。

III 成果物

- ・研究授業、一人一実践の指導案、ワークシート、資料等
- ・各教科と伝統文化教育とを関連付けた「年間指導計画」
- ・地域素材を生かし、指導計画が見通せる「教材科シート」

(研究主任 小椋 規雄)